2002年春夏レディスファッション・トレンド

株式会社カネボウファッション研究所　中　原　節　雄

1.　2002S/S テーマ-DESTINATION

2002年春夏のテーマワードを「デスティネーション」とした。DESTINATION を辞書で引くと、「宛先」「目的地」「目的」「指定（アポイント)」という風に出ている。

そのとおりなのだが、最近のニューヨークでの使われかたを具体的に見てみるとよく分かると思う。

それは例えば、店や複合型の商業施設などを形容する言葉として使われている。日本語的にいえば、「デスティネーション性のある店」というような表現になるが、それは生活者が「最終目的地」とする店のことを指している。ぶらぶらとウインドーショッピングをしながら、衝動買いをするような店ではなく、最初から「ここに行けば必ず買いたいものがある」と確信を持って、生活者が出かけていく店のことである。例えば、圧倒的に豊富な品揃えがなされているとか、ほかにない個性的な商品が揃っているなどの魅力を生活者に発信している店のことを言っている。

そういえばデスティネーションの動詞形の「デスティーン」には「前もって目的を定めておく」「運命づける」という意味があり、類語の「デステニー」には「前世からの約束」「運命」という意味がある。

だからデスティネーション性のある店とは、ちょっとした魅力を持つ店を超えて、生活者を運命づけるほどの強い魅力を持つ店ということになるだろう。

このようなことから、2002年春夏のテーマを「デスティネーション」と設定したが、デスティネーションは、「我々生活者にとって無くてはならないモノやコト」、「どうしても引きつけられてしまうモノ」、オーバーに言えば「そうすることを運命づけられているコト」などを指している。

2002S/S に向けてはデスティネーションをキーワードとした、生活者を強力に動機づけるようなモノやコトがクローズアップされるが、このような傾向の中での具体的な動きとしては、「リアライズ」と「コンストラクト」という言葉に代表される次の２方向が重視される。

realize

realize は「実現する」、「はっきりと理解する」「悟る」、「実写的に表す」などの意味を持った言葉である。

ただし2002年春夏のテーマの具体的方向としては「実感する」という意味でとらえてみたい。いやもっと絞り込んで、同じ「実感」の中でも肌を通して感じるような、「体感する」という意味で使いたい。

頭で理解するのではなく、皮膚感覚で分かるようなモノ、コトが強く我々を引きつける。そのような、生命力にあふれたものが重視されるシーズンとなる。

▼

自然の生命力を感じさせるものや生き物としての人間の肉体などのイメージをファッションに求める傾向

construct

「組み立てる」「建設する」とか「作図する」といった意味を持つ construct なのだが、今シーズンのテーマの具体的方向性を表す意味としては、「作り上げる」を挙げたい。

今シーズンは realize の「実感する」とはほとんど対極的な方向性を持った、この「作り上げる」ことにより表現されたコトやモノがもうひとつの方向性として重要性を持つようになる。

人間の知恵や力によって作り上げられたものが注目されるのである。

▼

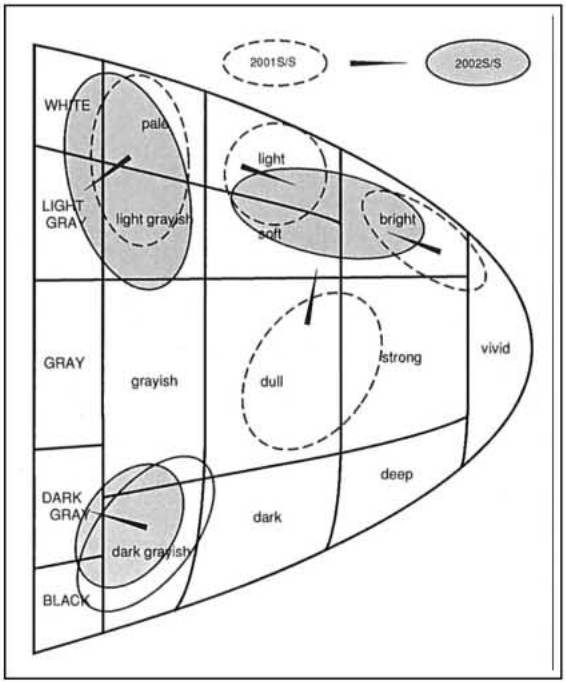
ファッションに建築やインテリアの構築された空間のイメージや、'80年代のアヴァンギャルドなデザインやアートなどのイメージなどを求める傾向

2. 2002S/S カラー

2001年春夏には「色の復活」がピークに達し、かなりブライトなカラーが提案されていた。今シーズンもきれいなカラーは多く選定されているが、強烈なブライトカラーは姿を消し、よりソフトで明るいライト、ブライトカラーに取って代わられている。

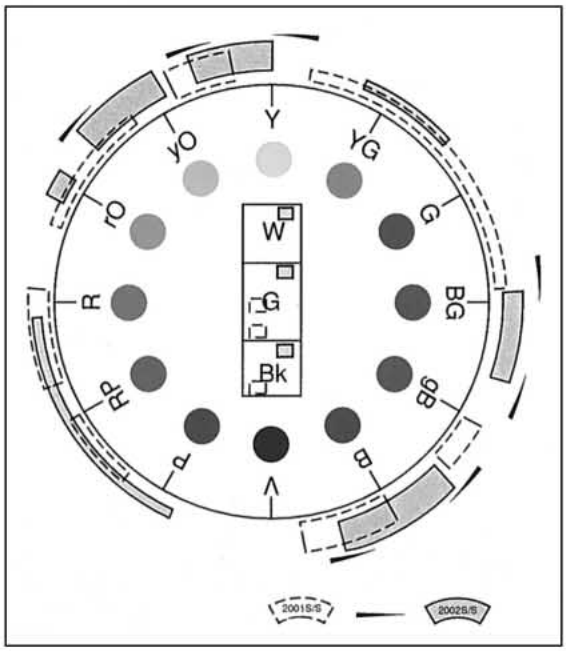
また、全体に明るいカラーが多く、パレットは軽い印象を加えていている。

［トーン傾向］



先シーズンは明度的には、高、中、低明度のカラーが揃っていた。これに対して、今シーズンは、ダルトーンを中心とした中明度カラーが消滅、より明るいソフトトーン方向へ高明度化の動きが見られる。このため全体として高明度トーンのカラーの比率がかなり高くなっている。彩度的に見ると、全体に若干低彩度化の動きが見られる。まず、先シーズンブライトトーンからビビッドトーンにかけて分布していた強烈な高彩度色は低彩度化と若干の高明度化の動きの結果ライト、ブライト、ソフトトーンにまたがる位置に移行し、より明るくマイルドな印象をのカラー群となった。また、低彩度トーンのカラーも若干低彩度化してニュートラル感覚を加えている。特にペール、ライトグレイッシュトーンとニュートラルゾーンにまたがる明るくソフトなグレイッシュ系のカラーは数を増しており、重視される。

［色相傾向］



2002年春夏のカラーはイエロー系とオレンジ系の色相のカラー群と、ブルー系のカラー群にブルーグリーン系のカラー群を加えたグループにかなりはっきりと集中化が起きており、この両グループの２極化状態となっている。この中でも特に、イエロー系色相のカラー群とブルー系色相のカラー群の対比は重視される。

この中で、今シーズン注目される色相としてはイエロー系色相のカラーを挙げたい。

［カラーパレット］

・**Powder Pale**　パウダー・ペール

おしろいや砂糖菓子の粉など、さまざまなパウダーのソフトな色調を思わせる、白っぽいペールカラーとホワイトから成るカラーグループ。

・**Reflection Bright**　リフレクション・ブライト

さわやかでフレッシュなイメージの、ライトカラーやブライトカラーで構成された、明るい高彩度カラーのグループ。

・**Pottery Moderate**　ポテリー・モデレート

彩色陶器や素焼きの壺などの色調を思い起こさせるような、マイルドなソフトカラーや深みのあるディープカラーから成るグループ。

・**Sand Neuyral**　サンド・ニュートラル

砂浜や砂丘の日に焼けて白っぽくなった砂の色調を思わせる、微妙に色味の異なるニュートラルカラーのグループ。

・**Midnight Dark**　ミッドナイト・ダーク

真夏の月のない真夜中の風景のような、ブラキッシュなダークカラーとブラックで構成されたカラーグループ。

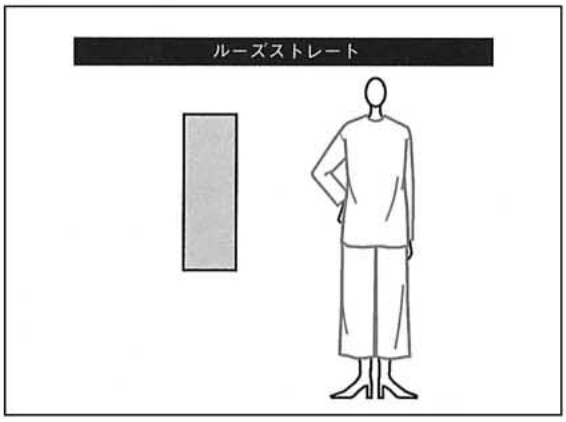
※Ｐ30にて［色相傾向］をカラーで掲載

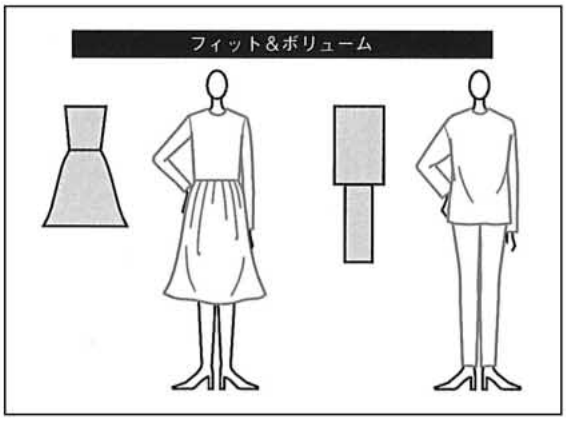
3. 2002S/S スタイリング

［全体傾向］

2001年春夏に本格化するシルエットの量感アップ傾向はさらに深耕して、2002年春夏はボリューム表現のバリエーションがポイントとなる。スタイリングとしては、素材・デザインのアレンジで上品なカジュアル感を表現した、ラフ感のあるスーティングスタイルが拡大する。

［シルエット］





量感のある表現が拡大する。ニュータイプとしては、トップスあるいはボトムスのいずれかをスリムにまとめた、80年代ムードのフィット＆ボリュームシルエットが浮上する。

アシメトリーなギャザーアクセントなど、イレギュラーなボリューム表現にも注目。

［スタイリング］

・スラウチなデザインやアヴァンギャルドなデザインアレンジによる、硬い印象になりすぎない、カジュアルなスーティングスタイルやセットアップが拡大する。一方でカジュアルなムードのレイヤードスタイルが浮上する。

・ドルマンスリーブ、オフショルダー、ギャザーデザインなど、イレギュラーなボリューム感にも注目。

4. 2002S/S ファブリック

［全体傾向］

上品さのあるカジュアルイメージへファッションが転換する2002年春夏シーズンには、シルキー素材から高級感のあるスパン調素材に主流がシフトする。このため、高級感のあるウーステッドやコットン素材が復活する。また装飾的な表面感からシンプルな表面感へのシフトも起きる。風合い的にはややハリ感のあるものが復活傾向にある。

［マテリアル］

高質なウーステッドタイプ素材やシルク素材が重要。

・久々にウーステッドタイプの高質サマーウールが復活傾向にある。スーパー100や120などの細番手糸使いのものなど軽くコンパクトなタイプのものが重視される。コットンでも同様に細番手糸使いの高質素材が重要。

・これらの高質スパン調素材をさらにグレードアップするためのシルク混が重要。シルクに代わる化合繊フィラメント糸混も使われる。

・ラフ感のある素材としてローシルクタイプの素材が上昇傾向にある。また、薄手でデリケーなラフ感を持つコットンや麻タイプ素材も継続する。

［テクスチャー］

表面変化を求める傾向は一段落し、プレーン化が進行する。

・プレーンな表面のベーシックな素材が重要度を高めている。また、ラフな表面効果のある素材にはテクスチャーのデリケート化が見られる。

・フェミニンでエレガントな表現の減少により、シルキーで装飾感のある素材はほとんど姿を消す。これに代わって、アバンギャルドなパンク調のキッチュな表面効果が注目度を高めている。

［風合い・タッチ］

ややハリ感のあるマニッシュな感覚の素材が復活する。

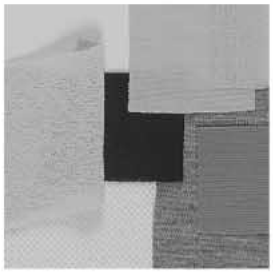
・ソフトで軽い素材は継続するが、今シーズンはマニッシュな感覚の適度なハリ感のある素材が復活することが注目される。もちろん今シーズンもソフトタッチで軽い素材は継続するが、シルキーなしなやかさではなく、細番のウールやコットンによる薄手でしなやかな風合いが主流となる。

・素材のタッチとしては、ドライでかさついた感覚が重視される。その表現として、強撚糸使いによるもの、またローシルクや麻素材などのラフな素材感によるものが重視される。

［注目素材群］

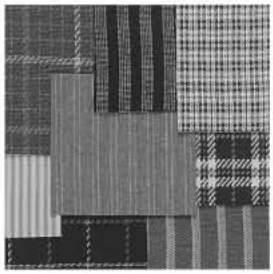
●ファインコットンタイプ（上・左）
ボイルやローンなどの細番手糸使いの透けるようなコットン素材やギャバジン、ポプリンなどのシャーティングタイプやボトムウエイトの高質なコットン素材。シルク混や合繊混での表現やストレッチ性のあるものも注目される。

●ローシルクタイプ（上・右）
ヘリンボーン、カルゼなどマニッシュな感覚のしっかりした組織のローシルクや太番手糸使いの麻素材。表面感はラフ感があり、時としては細かいスラブやリングヤーンなどの意匠糸使いも注目される。



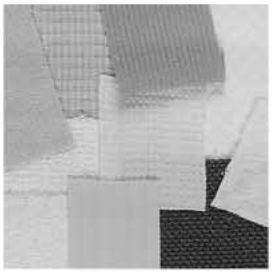
●サマーウールタイプ（上・左）
ギャバジン、トロピカル、ジョーゼットなどのウーステッドタイプのウールが復活。上質なカジュアルスタイルに使われる。高級細番手糸使いのしなやかな風合いのものが重視される。シルク・ウールや合繊混での表現も重視される。

●ドレーパリージャージータイプ（上・右）
コットン素材を中心としたスムースでドライタッチのドレープ感のある薄手のジャージー素材。プレーンなジャージーを中心にリブ組織のものも注目される。強撚糸使いによるドライなタッチが重要。



●ナチュラルラフタイプ（上・左）
ラフでイレギュラーな表面効果の出たコットンや麻タイプ素材。細い糸使いで薄手のものが中心。揚柳、サッカー、リップルタイプ、ガーゼの二重織りなどラフ感と共に凹凸効果を加えたものも注目される。

●マリントラッドタイプ（上・右）
ストライプ柄の出た素材。コットンやウーステッド、あるいは複合素材で、清涼感のあるさらっとしたタッチに表現することがポイント。



●ファンシーコットンタイプ（上・左）
コットンのアートピケやハウスリネン調のコットンダマスク、そして風通織りコットンなどファンシーなレリーフ効果やパターンのあるコットン素材。無地素材を中心としたシンプルな表情がポイント。

●マニッシュデコタイプ（上・右）
古びて穴や鉤裂きができたような効果をあえて施したり、アンティーク加工を施した装飾素材。ベースクロスはマニッシュなしっかりしたものが使われる。アバンギャルドな表情がポイントになる。

※Ｐ30にて［注目素材群］をカラーで掲載

5. 2002S/S レディス・ディレクション

［CURVACEOUS/カーベイシャス］

スポーツやエクササイズなど躍動的な肉体の動きにインスピレーション。ただし、スポーツそのもののイメージをストレートに表現するのではなく、よりモダンなモード感覚に、また女性の体のフィジカルな美しさを強調して表現することがポイント。

・カラー

明るいペールカラーとライトカラーをメインとした、白っぽくソフトなカラーリングが主流。

・ファブリック

体のラインを自然に表現できる、しなやかな風合いの素材が求められるため、「ドレーパリージャージー・タイプ」のドレープ感のあるジャージー素材が中心になる。これに、「ファインコットン・タイプ」や「ナチュラルラフ・タイプ」の薄手でしなやかな素材がアソートされる。

・スタイリング

ゆったりしたトップスにフィット感のあるボトムを組み合わせた、シンプルですっきりしたトップス＆ボトムのコーディネイトが中心となる。

［NOVEL CHIC/ノーベル・シック］

トラッド感覚のテーラードスタイルをベースにしているが、クラシカルな硬い感じの表現は避けて、あくまでモダンにシンプルに、そしてボーイッシュなカジュアル感覚を表現することがポイント。

・カラー

ややナチュラル感のある高彩度カラー群を中心に、ブラキッシュカラーをアソート。

・ファブリック

「ファインコットン・タイプ」の細番手糸使いのベーシックコットン素材を中心に、「サマーウール・タイプ」の薄手ウーステッド素材や「ファンシーコットン・タイプ」のピケ素材など、高質な天然繊維素材が重視される。「マリントラッド・タイプ」のトラッド感覚を意識した、すっきりとしたチェック、ストライプ柄も重要。

・スタイリング

テーラードスタイルをベースとしながらも、カジュアルに表現したストレートラインやボックスシルエットのコーディネートが中心となる。

［WILDING/ワイルディング］

自然の中のさまざまな表情を持つ造形物からインスピレーションを得たナチュラルラフイメージ。着崩した着こなしやラフな素材使いなどによるグランジ感覚が重視されるが、ライトなカジュアル感覚に表現することがポイント。

・カラー

明るいグレイッシュカラーをメインとして、これにナチュラルな中間色をアソートした、ナチュラルで落ち着いたカラーリング。

・ファブリック

「ローシルク・タイプ」のラフなスパンシルク調素材や麻タイプ素材などの、マニッシュな感覚のラスティック素材が主流。これに「ナチュラルラフ・タイプ」の薄手でラフな表面効果のある素材がアソートされる。

・スタイリング

ボリューム感のあるルーズシルエットや適度にゆとりのあるソフトナローシルエットの、着崩した感覚の着こなしが中心。カジュアルでライトな感覚のレイヤードスタイルも展開される。

［VANGUARD/ヴァンガード］

'80年代のDCブランドブームの時代のデザインを思い起こさせるような、造形的でアヴァンギャルドなネオDCスタイルが展開するディレクション。マニッシュなムードの前衛的なデザインがポイント。

・カラー

ブラックとダークカラーがメインの禁欲的なカラーリング。これに明るめのグレイッシュカラーをアソートカラーとして加える。

・ファブリック

ややハリ感のある「サマーウール・タイプ」のウーステッド調素材が主流素材。これに「マニッシュデコ・タイプ」のアンティーク感覚の装飾素材をアヴァンギャルドなイメージを強調するために組み合わせると効果的。

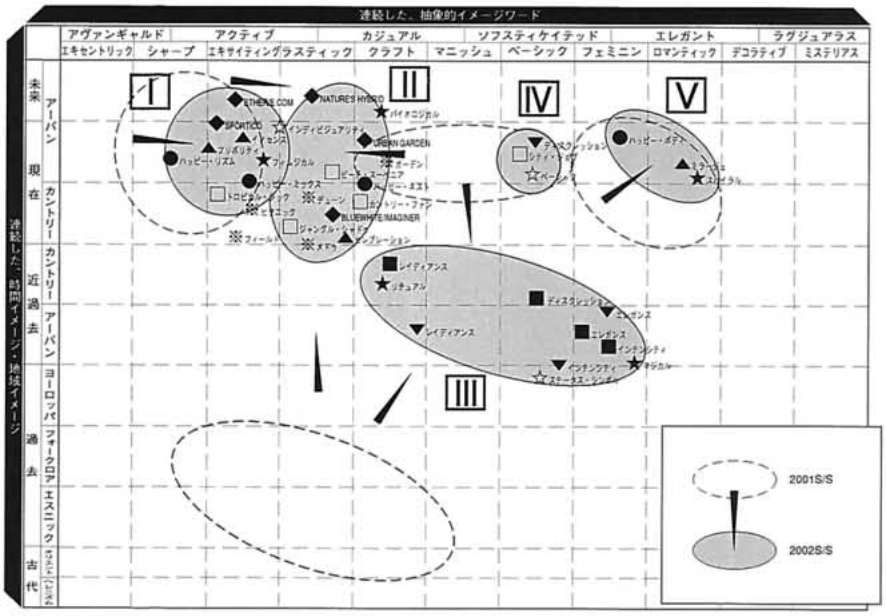
・スタイリング

肩のラインをやや強調した、大きめのシルエットのスーティングスタイルや、造形的なデザインやアシメトリーシルエットでアヴァンギャルドなマニッシュテイストを表現したスタイルが展開する。

参考　―　海外ファッション情報のイメージ分析

最後に、カネボウファッション研究所のトレンド予測のためのデータとして使っている資料を紹介する。それは、ファッション研究所で入手している複数の海外ファッション情報の分析データである。今回は、その中から、ファッションイメージの分析データを紹介するが、この他にカラーやファブリックの分析も行っている。

イメージ分析は、下に示したイメージマトリックス上に、各情報で提案しているディレクションイメージをポジショニングしてその分布を見ることによって行った。マトリックスはタテに「時代」と「地域」を重ねた軸を取り、ヨコにファッションイメージを表すワードを連続するように並べた軸を取っている。グレーの楕円は同じ様なイメージのディレクションをグループとしてくくった集中ゾーン、点線の楕円は比較のために置いた、１年前の2001S/S の集中ゾーンである今シーズンはⅠ～Ⅴの５つの集中ゾーンが抽出された。



2002S/S の集中ゾーンの分布を見てみると、時代軸でいうと現在のところに位置したモダン感覚のイメージが多いことが分かる。先シーズンは過去のイメージ、特にエスニック、フォークロアなどの民族調イメージが出ていたのが、今シーズンはこのイメージがほぼ消滅したためにこのような結果となっている。なお、民族調イメージに代わるイメージとしては、ややクラシックなエレガント・イメージが出てきている。また、モダンな感覚のイメージの集中ゾーンはバリエーションが多いが、中ではラスティックなテクスチャーやハンドクラフト調の味わいなどを特徴としたナチュラル・イメージの進出が注目される。

さらに、見逃してはならない動きとして、フェミニン・イメージやロマンティックイメージなどの女性らしさを表現したファッションテーマの減少が挙げられる。先シーズンまではかなり多く見られた女性らしいイメージの集中ゾーンが今シーズンはすっかり縮小している。

Ⅰ　エキサイティング・イメージ

モダンデザインやハイテクイメージなどフューチャー感覚のシャープなイメージの集中ゾーン。

Ⅱ　ラスティック・イメージ

ラスティックなテクスチャーを共通要素としたナチュラル・イメージの集中ゾーン。

Ⅲ　エレガント・イメージ

古き良き時代を彷彿させるような、クラシックで上質なイメージの集中ゾーン。

Ⅳ　アーバン・イメージ

都会的に洗練されたシティー・イメージの集中ゾーン。

Ⅴ　フェミニン・イメージ

先シーズンと比べるとすっかり少なくなってしまったフェミニン・イメージの集中ゾーン。

注目素材群と色相傾向

［注目素材群］

・ファインコットン
タイプ

・ローシルクタイプ

・ナチュラルラフタイプ

・マリントラッドタイプ

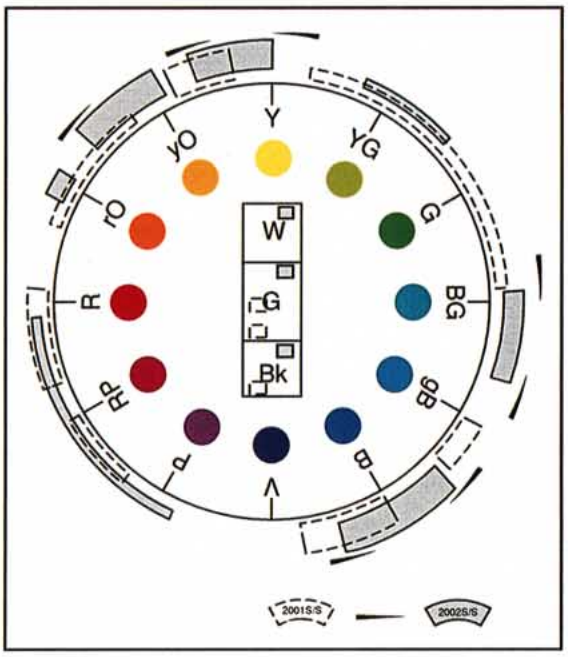
・サマーウールタイプ

・ドレーパリー
ジャージータイプ

・ファンシーコットン
タイプ

・マニッシュデコタイプ

［色相傾向］



かわとはきもの No.116
2001年6月29日発行

平成13年度
登録第1号

発行／東京都立皮革技術センター台東支所
〒111-0033
東京都台東区花川戸1-14-16
電話 03（3843）5912㈹
印刷／株式会社 第一印刷所
〒110-0003
東京都台東区根岸2-14-18
電話 03（3871）4261㈹

本紙表紙記事の無断転載を禁じます。

R70
本文は古紙配合率70%再生紙を使用しています